

おみ図書館 文部科学大臣表彰受賞

すでに『ホット・情報 麻績』や『市民タイムス』等の記事で皆様もご存じのとおり、わたしたちの「おみ図書館」が、『平成30年度子供の読書活動優秀実践校』文部科学大臣表彰を受賞しました。先月23日、図書館司書の新海知子先生が、国立オリンピック記念青少年総合センター（代々木）にて開催された表彰式に出席して、文部科学大臣からの表彰状をいただいております。

5月校長講話（9日）に、子どもたちにあらためてこのことを報告しました。この受賞は長野県内で本校と、中学校1校、高等学校1校の受賞ですので、「長野県一番」の『おみ図書館』ということになります。子どもたちにも、「どうして長野県一番になれたのでしょうか」と問いかけました。

- 1 地域の皆様のあたたかい支えがあるから
- 2 地域の皆様と触れ合うことのできる図書館だから
- 3 先生方も読書を大切にしてくれているから …どれもがその答えで「でも、それだけのはずありませんよね」ということで、
- 4 一番大切な答えは「みなさんが本を大好きでいてくれるから」であると考え合いました。更に、「どうしたら日本一ばんの図書館になれるのでしょうか」とも問いかけました。その答えは「皆さん一人ひとりのなかに」あるのです、とも。



おみ図書館が「平成30年度子供の読書活動優秀実践校」に選ばれました

おみ図書館が、文部科学省において表彰を行っている「子供の読書活動優秀実践校」に選ばれました。

この表彰は、平成14年度から読書の推進を資するため、優れた取組等を行っている学校、図書館及び団体(個人)に贈られるものです。

長野県では、3校の学校と1件の団体が表彰をされました。



文部科学省より表彰をいただきました

小沢智子校長先生（現在 松本市立菅野小にお勤め）からも、お祝いのお手紙をいただきました。麻績小のことをいつも温かく見守ってくださり本当にありがたく思います。そのお手紙のなかに、わたしたちが考えるべきこと

がすべて含まれていると思います、ここでご紹介申し上げます。

「…市民タイムス掲載の『おみ図書館』が表彰された記事をみました。司書の新海先生、図書館スタッフの皆様、今まで携わって来られた皆様のご努力と実践の賜ですね。平成16年、公共図書館と学校図書館が統合された図書館として開館した「おみ図書館」。統合時の引っ越しのご苦勞をお聴きしていました。その当時にかかわってくださった麻績村の教育委員会はじめ皆様様の先見の明と麻績村の教育・文化への情熱をあらためて感じています。『おみ図書館』は、麻績小学校そして麻績村の偉大な強みです。今後、益々発展されること、おみ図書館に子どもたちのそして村の方たちの笑顔が溢れますことをお祈りし、お祝いの気持ちをお届けいたします。 小沢 智子」

おみ図書館職員の皆様はもちろんのこと、おみ図書館を取り巻くすべての方々の熱い想い、長い長いご尽力の積み重ねやそれに応じて読書の魅力を感じ本に親しみ続ける麻績の子どもたちの今日までの姿があつてこそ、今回の受賞があると思います。さらに大切なことは、この受賞を機に、子どもたち・わたしたちがおみ図書館を一層誇りに思い、さらに本に親しむ子どもたちに育つ・そんな子どもを支えていくことであると改めて思います。

「181冊」子どもたちにも伝えましたが、昨年度の児童一人あたりの平均貸し出し冊数です。この数値の高さももちろん今回の受賞につながっています。しかし実は、28年度に比べると、この値も30冊も減少しているのです。たくさんの本を借りることにのみ価値を置く必要はありませんが、「読書離れ」「本離れ」が麻績の子どもにも起き始めていることが危惧されます。

ありがたい評価をいただいた今であるからこそ、あらためておみ図書館の魅力を考えたり、日頃の読書に対する自分のあり様を振り返ったりする好機としたいと思います。保護者の皆様の「親子読書」の取組も、もちろんこの受賞の大きな要因となっています。ご支援ありがとうございます。では、ご家庭における日頃のお子さんの読書に向かう状況はいかがでしょう。貸し出し冊数減少にあらわれる心配な様子はありませんか。

子どもさんが本に親しむことのできる状況を、今後どうしたら維持でき、更に向上させていくことができるかを、わたしたちとともに考えていただくことができれば幸いに存じます。

わたしが大好きな「図書館開館を待ちわびる子ども」の写真です。昨年4月、麻績小学校に赴任して、まずこの子どもたちの姿に心がしびれました。この姿が、今後ずっと変わらずいてくれることを願います。

